

NO LIMIT

限りなき山行



ヘリコプターの機窓からメルバーヘル湖と南北イニリチェク氷河合流点方面を望む



カルカラ近傍の南天山山脈の雪嶺が連なり圧巻だ



カルカラ後背の山地に咲く黄色いケシの花

カルカラでのプレ順応についてざっと説明しよう。カルカラのカザフ側から本流を離れて左上する小道に入り、小尾根を乗っ越して支流に下りる。その小沢沿いに遡ると、やがて樹林帯を抜け出し、辺りはイエローピークの群落など、目も眩なお花畑が広がる。水源近くまで登り、キャンプ地を定めよう。

翌日、斜面を登りつめて稜線に出ると、昨日の沢の源頭の3800m前後のピークに立つ。晴天ならば南東遠くに中央天山の高峰群が、さらに南西へと高度を下げながらも白銀の山嶺が果てしなく連なっていて壮観だ。前方に雪を

戴いたカルカラ峰が望めるが、途中には険しい岩峰がある。ここまでで引き返しても順応的には十分だが、進むなら一通りの登攀装備と、帰途にもう1泊できる用意を整えて臨みたい。さて、カルカラからいよいよへりで100kmひとつ飛び。89年は北イニ氷河BCに運ばれた。南北イニ氷河の合流点上空に

今回、坂上光恵さん(日大WV部OG・語学教諭)から最新事情の教示を得た。深く感謝したい。坂上さんは1989年の天山初訪問以来、30年間にパミールを含めて毎年のように中央アジアを訪問。レーニン、ムスターグアタ、ハンテングリ、ボバーダ西峰等々に登頂。ほかにも世界各地の山々を踏破されている。

幸せの国・ブータンの

メリーポピーたち

花を求めてブータン紀行

最終回

松永秀和



メコノプシス・ガキディアナ

インド・アルナーチャルプラディッシュ、バンガジャン 標高4300m

昨年5月号から17回続いたブータンの青いケシもいよいよ最終回となった。掉尾を飾るのはブータンの国花であるメコノプシス・ガキディアナ。世界に数ある国花の中でもこの花ほど優美な国花はないだろう。丈は約1m、花の直径は10〜15cmとすらりとした八頭身だ。顔色も濃紺から薄紫色まで多彩で、一個の花でも濃い緑取りから中心部に向かって薄くなり、透明感に溢れている。ブータンで見られる17種の青いケシの中でも飛び切りの美人だ。

この花は多くのエピソードに満ちている。1934年、ブータン東部を巡ったシエルフイールとルドローがインド・アルナーチャルプラディッシュの国境、オルカ・ラで採取。同年、植物学者J・テイラーがメコノプシス・グランデイスと命名する。種はイギリスにもたらされ、キングドンIIウオードのM・ベトニキフォリアと並んで英国で青いケシの大ブームを巻き起こした。現在、シェリフ・グループとされる青いケシ園芸種の元となった。その後、M・グランデイスの変種オリエンタリスとして再分類されたが、2014〜2016年日本の青いケシ研究会メンバーによる調査で、独立した種となった。種名のガキディアナ(gakyidiana)はブータン語で「幸福(gakyid)」「を意味し」、国民総幸福量(gross national happiness)を掲げるブータンに相応しい花である。

7 以前掲載した花の名前に誤りがありましたので訂正します。
2018年9月号 (正)メコノプシス・ホリデュラ var. ドックユエンシス
2019年3月号 (正)メコノプシス・プリムリナ